

「2022年ダイヤ改正について」 提案を受ける！① ダイヤ改正日 2022年3月12日(土)

ダイヤ改正の主な内容

常磐線関係

- ◆ 特急列車の一部削減、運転間隔の見直し、一部列車の品川延伸による利便性の向上
- ◆ 普通列車における輸送力適正化(特別快速列車と普通列車の運転本数見直し)、一部列車の品川延伸による利便性の向上
- ◆ **日中時間帯における土浦駅での系統分離の実施**

※土浦駅での系統分離

品川・上野～水戸・勝田間を直通する列車を、
土浦駅止まり・土浦駅始発とする。
これにより列車の乗り換えが発生する。

至 品川

土浦

至 水戸

水郡線関係

- ◆ 一部列車の運転時刻見直しによるお客さまの利便性向上
- ◆ 一部列車の輸送力適正化(編成両数見直し)
- ◆ 一部列車のワンマン運転区間拡大
- ◆ **水郡線営業所を廃止し水郡線統括センターを新設する**

水郡線統括センターとなる職場
運輸職場：水郡線営業所運輸科
営業職場：常陸青柳～磐城守山間
南 酒 出～常陸太田間
(JR 本体営業駅：上菅谷、常陸大子)

議 論

常磐線関係

- 列車削減となる特急列車のご利用状況は、把握していないがコロナ以前には戻らない。全体的には60%の乗車率に回復している。全てのお客さまが前後列車へ移動するとは考えていない。ローカルへ移動する人もいる。前後列車の乗車率が100%にはならないと考えている。
- **乗車率は増える見込みはあるが車内巡回できないことは想定していない。乗り込み体制の考え方に変わりはない。**
- 削減される列車本数は一概には示せない。これまでも設定キロ、車両配置で説明している。
- 日中時間帯の土浦～水戸～いわきのそれぞれの区間での列車削減本数については、発時刻などの調整はしているが本数的には減ってはいない。
- **土浦駅での系統分離は9時台～14時台の時間帯に12本の列車があるが、その中で系統分離するのは10本。10本中で橋を渡り乗り換えが発生するのは2本で、乗り換え時間は6分30秒と16分。**
- **系統分離による、列車遅延時などを想定したパターンによる対応は、持ち合わせていない。異常時(列車遅延)ありきでの設定はしない。しかし東鉄指令には異常時対応の勉強をしてもらっている。**

水郡線関係

- ワンマン運転が拡大となる334Dは10%、843Dは30%程度、845Dは10%前後の乗車率。**(ワンマン運転とする)判断理由は、ワンマン運転の拡大、ご利用状況、乗車人員数、編成両数の変更などをすべてを考慮総合的に判断した。**
- 843D常陸大宮駅でツーマンからワンマンに切り替わる際は、乗務員のスイッチ整備の時間として3分間の停車時間を確保した。

水戸線関係

- 変更なし

続く